

## 第22回 宍粟市総合教育会議

# 会 議 録

(要点筆記)

日時 令和5年11月15日 午前10時50分から

場所 宍粟市役所 4階 402・403会議室

## 第22回 宍粟市総合教育会議 会議録

### ● 開会・閉会の年月日時及び場所

令和5年11月15日（水） 午前10時50分～午後11時20分

兵庫県宍粟市山崎町中広瀬133番地6 宍粟市役所 4階 402・403会議室

### ● 会議に出席した者の職氏名

#### 構成委員

福元晶三	市長	中田直人	教育長
片山繁樹	委員	金本一二	委員
飯田さおり	委員	中川まゆみ	委員

#### 事務局

大谷奈雅子	教育部長	小河秀義	教育部次長
大砂正則	次長兼教育総務課長	中田 吏	学校教育課長
小池信仁	こども未来課長	岡内由里	こども未来課長（指導担当）
水口恵子	社会教育文化財課長	西林文隆	次長兼施設整備課長
大北真彰	山崎学校給食センター所長	中尾善弘	次長兼まちづくり推進課長
岡田滋久	学校教育課副課長	岩本浩二	教育総務課副課長

## 1 開会

### ● 福元市長あいさつ

教育委員会から引き続いての総合教育会議となりますが、よろしく申し上げます。

今朝は、宍粟市グラウンドゴルフ協会主催の秋季大会がありました。参加者の皆さんはともお元気だったのですが、大変寒かったです。波賀町道谷では、先日7センチほどの積雪があったと聞いています。季節が一気に変わってきましたので、皆さんも十分健康管理に留意いただきたいと思います。

それから、この総合教育会議でも協議いただいた学校給食費の関係につきまして、昨年より、保護者の皆さん、地域の皆さん、また、運営委員会のなかで、今後の給食のあり方について、議論をしまいいりました。今の給食の質を維持し、また、子どもたちに「給食を食べるために学校へ行きたいな。」と思ってもらえるような給食を提供するためには、どうしても値上げをせざるを得ないと説明を行っています。

結論を申し上げますと、市としても、一定値上げの方向に進まざるを得ないと考えておりました。最終的なことについては、別途報告があるかと思いますが、ご理解いただきたいと思っております。

他の団体で給食費の無償化を実施されているところもありますが、宍粟市の状況から言いますと、無償化を実施するには非常に厳しい状況であります。ただ、昨今の物価高の影響の大きさを踏まえ、何とか支援策を検討していきたいと考えておりますので、それにつきましても、具体的な案が決まりましたら報告があるかと思っております。

あらためて、本日は学校部活動の現状と今後の課題ということで、事務局からの説明を受けた後、皆さんとそれぞれ情報共有をしながら、今後の在り方について、議論していきたいと思えます。

よろしくお願ひします。

## 2 協議報告事項

### (1) 学校部活動の現状と今後の課題について

#### ● 事務局より説明

資料1～27Pにより、国の動向、部活動の現状、地域連携や地域移行を進めるうえでの課題、今後の進め方について、学校教育課・岡田副課長が説明を行った。

#### ● 委員からの意見及び質問並びに事務局からの回答等

(片山委員)

年度始めの職員会議、あるいはそれ以前に調整会議があるのかもしれませんが、それらの中で部活動の顧問を決定されているかと思いますが、部活動は明らかに超過勤務になるので顧問への就任を拒否するという教員はいますか。それとも単にその競技等の経験がないから顧問はできませんという教員はいますか。

そのあたりの事情について、教えていただければと思ひます。

(中田学校教育課長)

現状、委員がおっしゃられたような教員はおりません。ただ、部活動は休日の活動が必要となる場合もありますので、家庭の事情等も含め顧問になることが難しい教員がいるのは事実です。

部活動の顧問の配置は校長が行っていますが、事前にヒアリング等が行われ、家庭の事情等についても配慮したうえで、決定されています。

(片山委員)

教員の数も減ってきていることから、生徒が希望している部活があるものの、その部活の顧問が見つからないため部活が成立しないといったケースはありますか。

(中田学校教育課長)

そのような状況になっている部活動はありません。学校にある部活動については、すべて顧問が配置されている状況です。

(飯田委員)

昨年、部活動の地域移行に関する全国オンライン研修に参加しました。そのなかで部活の教育的効果として、達成感の獲得・責任感や連帯感の涵養・学習意欲の向上などがありましたが、学校から部活動がなくなり、学習と行事の中で、これらの感覚を成長させていくことができるのかという意見、また、技術だけでなく心の指導もできる人材が見つけられるのかといった意見がありました。

そのほか、子ども同士のトラブルがあった場合に誰が責任を持って対処してくれるのか、遠方への送迎で保護者の交通費の負担が大きくなるけど大丈夫なのか、部活動

に参加しない生徒にどんな場を提供できるのかといった意見もありました。

今日の資料24Pに同じようなことが課題として書いてあったので、どこも同様の課題を抱えていると感じました。

また、その研修の際に、部活動指導員のことも話題になったのですが、宍粟市ではすでに配置されている学校もあるとのこと、良い取組だと思います。

**(中田学校教育課長)**

飯田委員のご意見にあったとおり、本市でも同様の課題を抱えています。

また、部活動指導員につきましては、複数名の雇用を行っていますが、教員免許を持っている方を雇用しているケース、スポーツの指導という部分で雇用しているケースがあります。

**(中川委員)**

部活の指導を頑張りたいから中学校で教員をしている方もあると思うのですが、地域移行になったとき、その教員のモチベーションが維持できるのか、そういった部分が心配です。また、勉強・行事が中心になることについて、実際の教員の気持ちはどうなのかと気になっています。

**(中田学校教育課長)**

中川委員のご指摘のとおり、本当に情熱を持って部活動に取り組まれている教員もいます。そういった先生のモチベーションが維持できるよう休日に兼務辞令を発令することで、地域移行後も指導ができる可能性もありますので、今後、検討していきたいと思います。

**(福元市長)**

資料26Pに今後の進め方ということでお示しいただいておりますが、令和6年度から協議会を設置し、先ほどのご意見も踏まえながら、しっかりと将来に向かっていこうということ、もう1つは実証事業の実施ということで、どんな部活動での取組となるかわかりませんが、課題を整理しながら進めていただきたいと思います。

国全体がそういう方向でありますし、教員の働き方改革との関連もあります。

事務局として頑張ってくださいとともに、市におきましても、それぞれの部局の垣根を乗り越えて、しっかりと議論を深めていきたいと思います。

**3 その他**

なし

**4 閉会**

● **中田教育長あいさつ**

市長からもおおむねこの方向でということで意見をいただきました。

部活動は、教員の献身的な姿勢で、また、情熱でもって支えられている教育活動といえますが、もうそれだけでは継続していくことが難しい状況にあり、そこに、地域の方々の何とかな

らないかというムードもあって、今この背景となっています。

今後考えなければならないこととして、一つは、中学校における部活動をどうやって持続可能なものとしていくかということ、もう一つは、部活動の指導が教員への大きな負担になっていることから働き方改革の一つとして部活動改革を考えるべきではないかということ、この2点を踏まえたうえで、宍粟ならではの取組を考えていくべきだと思います。

令和6年度に設置予定の協議会のなかで、教職員、保護者の皆さん、地域の皆さんと積極的に意見交換をしながら、また、教育委員会と関係部局が横断的に連携していきながら、スポーツに理解のある市長のもと、カヌー・スキー・ゴルフなど、自然環境・地域資源を活かした宍粟ならではの取組を進めていければと考えています。

教育委員の皆様にも、引き続きご意見をいただければと思います。

本日はありがとうございました。